

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

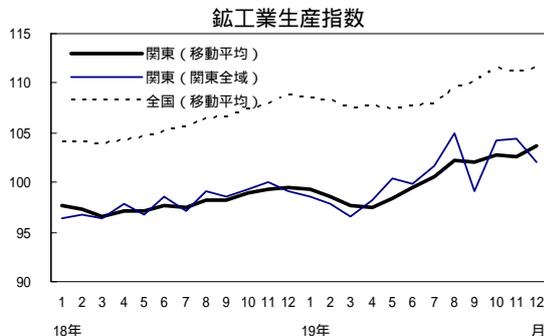
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 11 月）	今回（平成 20 年 2 月）	
景況判断	回復している	緩やかに回復している	
雇用情勢	着実に改善	改善の動きに一服感がみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。（関東全域）

一般機械は、汎用内燃機関（ガソリン機関、ガスタービンなど）に動きがみられたものの、半導体製造装置が不調であったため、おおむね横ばいとなっている。化学は、前期の定期修理の反動のため、増加している。輸送機械は、北米、欧州を中心とした、乗用車向けの駆動伝導・操縦装置部品が引き続き堅調であったため、3四半期連続で増加している。情報通信機械は、年末商戦に向けた液晶テレビの受注が好調に推移したため、6四半期連続で増加している。電気機械は、半導体IC測定装置は引き続き低調なものの、映像機器や電動工具などに使用されるアルカリ蓄電池が、欧米向けに好調であったことから、増加している。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

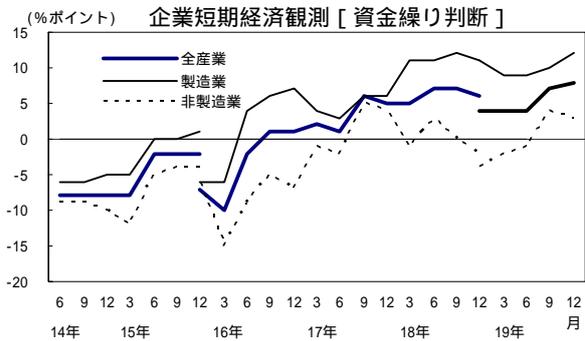
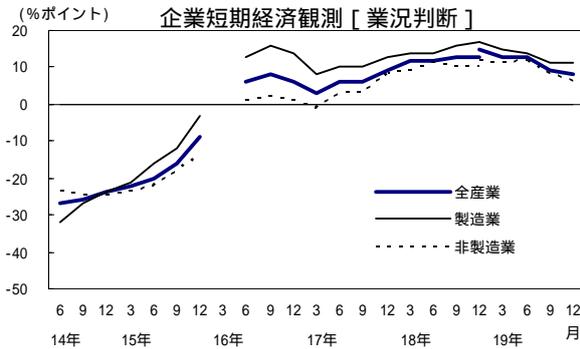
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	13.8	2.1	0.5	1.1	0.6
化学	13.7	0.7	2.0	3.3	1.2
輸送機械	11.3	6.1	5.6	6.6	20.4
情報通信機械	8.6	3.8	3.1	3.8	5.5
電気機械	7.9	4.5	3.6	3.1	5.8
鉱工業	100.0	2.5	1.6	2.5	2.2

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 10~12月期の化学の生産、出荷は、10月、11月確報値の平均より算出。在庫は、11月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

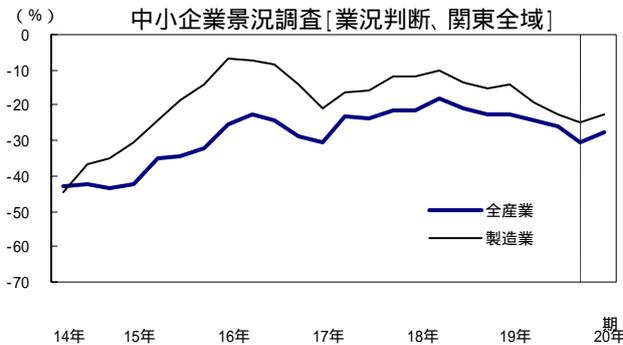
旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「全般的に荷動きは落ち込んでいるが、燃料高により湯たんぽやあんかなど、家庭向けの省エネ、光熱費節約グッズの荷動きが多少良く、前年より運行状況は良くなっている。しかしながら支払の燃料費の負担高もあり、収益的には上がっていない(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

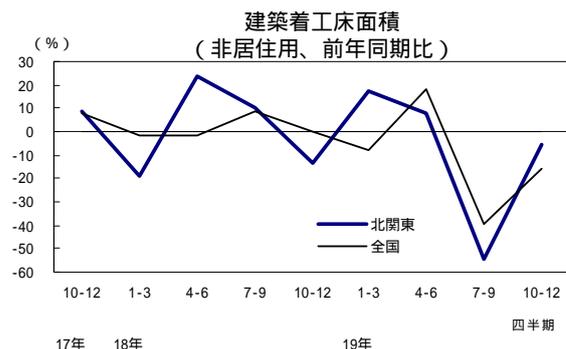
(3) 19年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績	19年度計画
全産業	1.3	1.3 [4.6]
製造業	31.9	2.3 [0.8]
非製造業	27.6	6.4 [12.5]

(備考)[]は前回(9月)調査結果。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

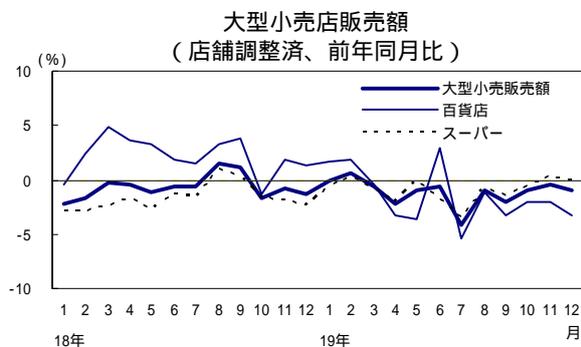
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、飲食料品は催事効果などで好調だったものの、中旬まで気温が高めに推移し、主力の衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。11月は、冷え込む時期が遅く、婦人衣料などが振るわなかったことに加え、ブーツやハンドバッグ等の身の回り品の動きも低調に推移したため、前年を下回った。12月は、天候・気温が不安定だったことによる重衣料品の低迷や、歳暮ギフトやおせち受注の前倒し効果により、衣料品が振るわなかったことから、6か月連続で前年を下回った。

スーパーは、野菜の相場高が影響し、食料品は売上を伸ばしたが、不安定な天候のため、主力の衣料品が期を通して低調に推移したため、全体としては前年並みとなった。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

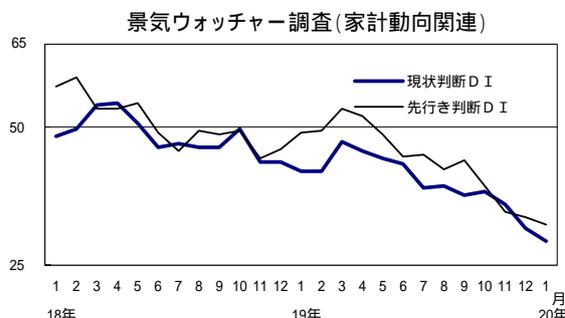
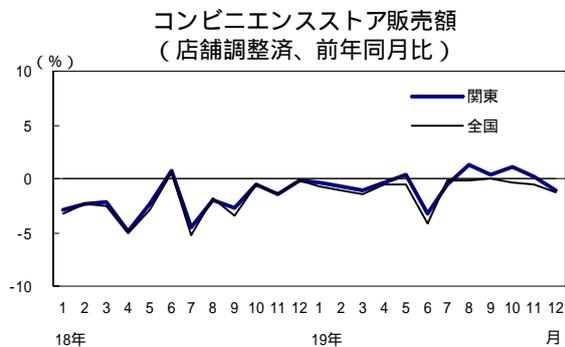
「特価、売出し慣れなのか、購買意欲がみられない。消費は生活必需品に流れて、デジタル化に対する意識はあっても商品購入はぎりぎりまで待っている(一般小売[家電])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	0.1	1.3	2.4	0.8
百貨店	0.9	1.4	3.5	2.6
スーパー	0.4	1.3	2.0	0.1
コンビニ	0.7	1.1	0.3	0.0
景気ウォッチャー	43.8	44.5	38.6	35.4

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。19年10-12月期は速報値。コンビニは関東全域。

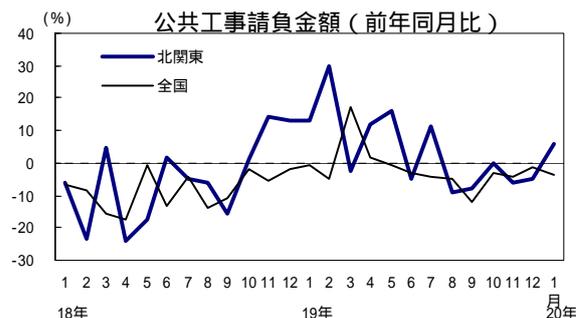
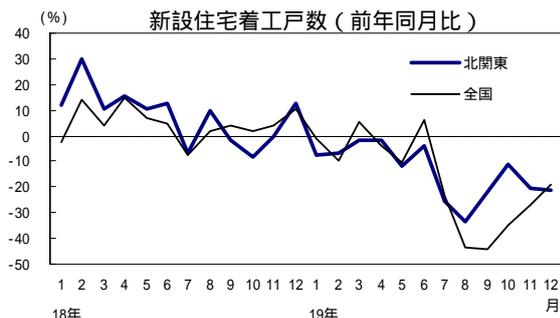
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

分譲、貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は19年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

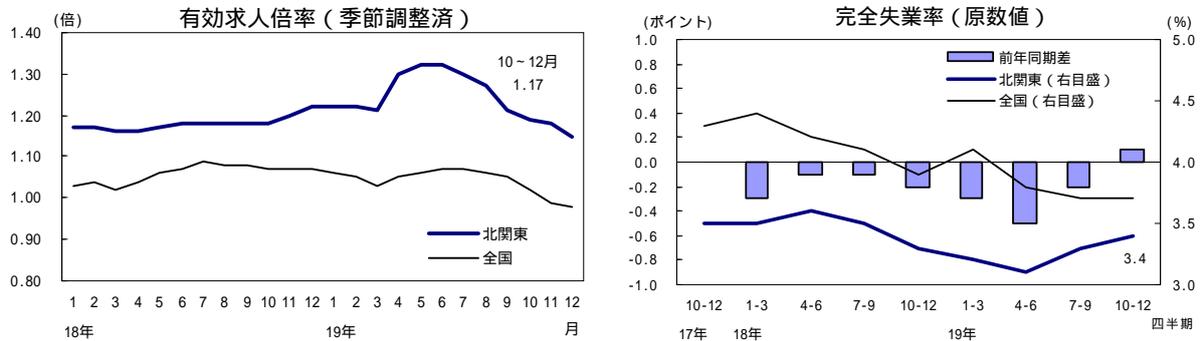


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに一服感がみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

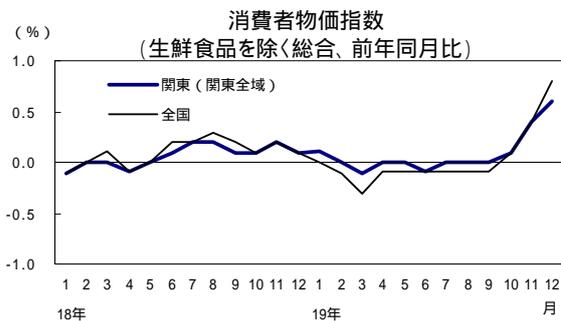
「新規求人、有効求人共に前年同月を約 20% 下回っており、月を追うごとに減少幅が拡大している。特に、中小企業のパート求人の減少が大きい (職業安定所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、負債総額が減少しているものの、件数はおおむね横ばいとなっている。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	20年1月
倒産件数	209	223	192	196	62
(前年比)	13.6	45.8	22.3	2.6	3.3
負債総額	1,119	1,087	875	1,221	270
(前年比)	18.3	9.9	6.9	13.1	18.1



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・成人式の着付け客は前年より増えたものの、7割は貸衣装店からの紹介であり、ほとんど利益が取れない。それでも紹介がないとしたら間違いなく売上が減少した (美容室)

<先行き>

・以前は1万円札を両替して数千円からお金を出して利用する客が多かったが、最近客が千円札を両替するようになっている。客の意識は浪費から堅実な消費に変わってきており、この傾向はある程度続く見込みである (その他レジャー施設 [アミューズメント])

